過疎地域における地域包括ケアシステムサポートのための多職種連携生涯学習モデルの開発

高村 昭輝 氏

金沢医科大学
医学教育学講座／地域医療学講座　講師

1.多職種連携の重要性

地域医療構想下での地域包括ケア実践においての多職種連携は不可欠である。2030年以降に団塊の世代が85歳を迎え、現任者に対する多職種連携教育の位置づけが急速に高まると予想される。しかし、地域医療支援と生涯学習を目的とした多施設間多職種連携実践の改善の取り組みには利用できる社会資源の差も施設の数も地域格差が大きい。過疎地域では社会資源が都市部と比較してかなり限られ、包括ケアで協力する施設数も非常に少ない。本研究では以下を明らかにする。

(1)多職種連携やその学習を効果的に実施できるための仕組みや人口規模、施設数、地理的・歴史的要因。

(2)地域包括ケア支援のために地域特性…特に過疎地域に応じた効果的な多職種連携学習モデルを構築。

(3)それらの多職種連携生涯学習モデルに大学が、地域医療学講座がどのように関わっていくべきか。

2.期待しうる研究結果

調査分析結果から地域特性（人口、年齢層、行政の予算や地域の医療・福祉施設の規模）に合った生涯学習としての多職種連携生涯学習モデルを提案し、その利益不利益などからさまざまな地域に提案できる多職種連携学習内容と方略を明らかにする。北陸の過疎地域である穴水町、氷見市ではいずれも人口過疎、高齢化地域であるが、一方は過疎地の小さな町、他方は小規模都市であり、状況が異なる中でそれらの生涯学習が継続性を持って開催されていくために医育機関である大学の医学教育学講座、地域医療学講座など地域医療人材育成に深く関わりのある大学講座がどのように地域包括ケアシステムの改善などに関わっていけるかを明らかにする。

3.具体的な研究計画

(1)国内外の医療者における多職種連携学習の実例調査：現在、日本各地で地域包括ケアシステムのモデル事業が行われている。対象地域のみならず、大都市（東京、大阪など）など様々な地域の様々な条件の地域での多職種連携学習の実践例調査。

(2)文献調査：現代の国際的な医療者における多職種連携学習に関する情報を書籍、文献収集し、考察分析をすることで訪問調査のための調査項目確定。

(3)ニーズ調査：地域包括ケアシステム、地域医療構想を効果的に進めるために必要な多職種連携の在り方に関して前述の地域を中心にニーズ調査を行い、それらを達成するための学習の在り方を構築する。具体的には聞き取りの上の質的分析。

(4)教育タイプ分類：上記の実例、文献的考察、ニーズ調査から可能な限り、多職種連携学習のカリキュラム（目標、方略、評価）をタイプ別に構築する。また、それらが効果的に機能するための条件（地域の特性）なども設定する。